



Tokyo Social workers Fest. 資料



スケジュール／資料

13:00～16:00 S0502 講義室

【ゲーム&ワークショップ企画】

- ①コミュニティコーピング
「一般社団法人コレカラ・サポート」
- ②防災ワークショップ
「ボランティア団体 ご近所 de BOUSAI」

【トーク&ダイアログ企画】

- ヤングケアラートークイベント
- ・「一般社団法人ヤングケアラー協会」
 - ・「精神疾患の親をもつ子どもの会こどもぴあ」

【物販&飲食&展示】※5階エントランス

- ・「はとや」弁当販売
- ・「コドモカフェ オトナバー TUMMY」軽食
- ・「調剤喫茶」薬膳茶（S0502 講義室入り口前）
- ・「第3の家族」視覚比喩展示
- ・「AKariya」キャンドル販売（S0502 講義室）

【ゲーム&ワークショップ企画】

①コミュニティコーピング

一般社団法人コレカラ・サポートについて

コレカラ・サポートは、東日本大震災を機に、医療や福祉の専門職の方、弁護士や行政書士といった士業の方、NPO や行政、社会福祉協議会の方などとともに、

「地域で困り事を抱えて支援を必要とする人に支援する人たちをワンストップでつなぐ仕組みづくり」を目的に設立しました。

現在は、超高齢社会の『社会的孤立』という課題解決をミッションにかかげ、アナログゲーム開発・ゲーム体験による潜在関心層の発掘、人と情報の交流を図るオンラインコミュニティの運営、人と地域資源をつなぐリンクワーカーの役割を担うプレイヤー・ゲーム展開に協力してくれる認定ファシリテーターの養成と活動支援を行っています。

コレカラ・サポート HP

<https://koresapo.net/>

②防災ワークショップ

ボランティア団体 ご近所 de BOSAI

2014 年から防災啓発活動をしているボランティア団体です。災害の教訓を生かして消防、科学者、被災体験者等から学んだことを自分たちのまちに生かして、自助、近助について学んでいます。「つながることは、そなえること」を大切に、「楽しい」から「なるほど」につながる活動を目指しています。ただいま地震活発期で待ったなし！活動テーマは、首都直下地震サバイバル。大地震直後の公助の届かない時間があります。自分の命の守り方を早く覚えてもらいたくて、防災手話ソング「ソング de BOSAI」を作りました。子どもから大人まで、全員が防災ガイドを読んでいないでしょう？この歌には、神戸出身のいのっちさんに、手話ダンスの振り付けをつけてもらっています。被災地で、人々が外を走っていくのを不安な気持ちで眺めていたという聾者の体験があります。近所の人々が、「津波だよ、一緒に逃げよう」と手話や紙に書いたり、スマホの文字を見せたりできていたら良かったですね!!「ぜひソング de BOSAI」を検索して動画をご覧くださいと嬉しいです。早く大事なことを、一緒に歌って、楽しく踊る仲間を募集中です！歌のチーム以外に、応急救護のチームは地域の医療者とつながるサークル活動を始めます。一回ワンテーマで、小学生にもわかる医療的なお話を聞きながら実技を学んでいきます。交流会では、ミニ手話ワークや、メンバーで近況の報告、「東京防災」を使った防災情報の共有をしながら、ソフトにつながる仲間作りを目指しています。さて、文京区の皆さんが最も恐れるのは、地震火災、それも複数の火災が同時に起こった 101 年前の関東大震災や、来年で 30 年経つ阪神淡路大地震の話ではないでしょうか。1/1500 縮尺の地図を見ながら、地震火災の燃え広がりを学ぶチームは、いかに迅速に協力しあえるかを考えます。大地震直後のコミュニケーションのスタートは、住民自身です。「無事だった？」「火災はない？」「ガスは臭くない？」。大きな揺れで戦争の後のようになっている中で、せいぜい声をかけられるのは向こう三軒両隣(古くから、親しくしているご近所さんに向かいの三軒と両隣を合わせて 5 軒ぐらいと言われて、引っ越しの挨拶回りの目安になることがあります)。ある程度揺れが落ち着いたら、声をかけあって、助け合うご近所力「近助」から、町会などの防災自治組織の力「共助」へと、つながるコミュニティは、あなたの命が助かる可能性を高くします。それは、皆さんがされている日頃のご近所さんとの挨拶から簡単に始まっています。さいごに今後、高齢化もあり、単身世帯が増え続けることが予想されています。私たちのまちの災害対応力は益々落ちてくるとされています。関心のある方はどなたでも！防災知識は要りません。一緒に茶菓子をいただきながら、それぞれの得意を活かして備えて行こうというのが、「ご近所 de BOSAI」です。どうぞつながっていただきたく、よろしくお願いします！

【トーク&ダイアログ企画】

ヤングケアラーイベント

○ヤングケアラー協会・こどもぴあ

<ヤングケアラー協会について>

ヤングケアラー協会は、ケアラーとその家族が良好な状態でいられるための包括的な支援をしています。

- 1 相談窓口、キャリアサポート、居場所づくりなどを行います。
- 2 地域システムや様々な社会資源と連携します。
- 3 ステークホルダーに対して啓蒙活動を行います。
- 4 ルールメイキングのプロセスに関与し、リードしていきます。

<こどもぴあについて>

精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人と支援者で運営しているピアサポートグループです。東京・大阪・札幌・福岡・沖縄・岡山・高知に拠点があります。

親に病気がある子どもの立場は決して少なくはないのですが、親の病気を知る機会が少なく、どのように対応したらいいのか、誰に相談したらいいのか悩んでいる子どもたちがたくさんいます。そうした方々に「ひとりじゃないよ」ということを伝えるとともに、ともに向き合い、語り合うことを大事にしています。

<メッセージ>

子どもや若者がケアを担う背景には、年齢や性別、障害や疾病、国籍などの要因が交差しあって生まれる社会的不平等があります。

ケアを必要とする人とその家族に対して社会資源の情報や介入が不足している福祉制度の問題、家族主義的な社会規範も影響します。

子どもの成長発達のためには、「大人が話を聞いてくれるんだ」、「困ったときは社会が助けてくれるんだ」と感じられる体験を積むことが非常に重要ですが、ヤングケアラーの子ども・若者はその機会を得られにくいことがあります。「自分の気持ちは人に尊重してもらえる」経験を積めることが子どものウェルビーイングにつながります。

ヤングケアラーが直面する不平等（こどもの権利の侵害）を理解し、ケアに関連する責任を分配し、健全な心身の成長発達とアイデンティティの形成を支える公正な枠組みが必要です。

星野桃代
小林鮎奈

【物販&飲食&展示】

○有限会社はとや

身体にやさしい、手作りの弁当をお届けします。

住 所：東京都文京区白山1-18-5

電話番号：03-3811-8180

営業時間：6時30分～13時頃

定休日：日・祝日

このお店は昭和21年に免許をもらい、昭和22年1月に開店しました。店名の由来は分かりませんが、おそらく戦後、平和を願ってハトのお店と名づけられたと思います。

今もお店を必要としてくれるお客様がいます。「人が欲しがるものをつくるな、人の役に立つものをつくれ」という松下幸之助さんの言葉に共感してお店をやってきました。そんな人の役に立つお店として、これからもできる限り、この地域のためにやっていきたいと思っています。

○コドモカフェ オトナバー TUMMY

0才～100才以上、障がいあるなし関係なく誰もがゆったりできるスペースとして cafe&bar を開いております。営業時間及び催しなどはインスタにて発信中です。

@TUMMY.NITA



○調剤喫茶

当日は、折りたたみ式の屋台「調剤喫茶」を引き、ハーブティーや漢方をブレンドしたお茶を参加者に提供します。

雑談からこぼれる本音にこそ、その人の健康状態を知る大切な手がかりがあるのではないかな。

そんな思いから、「近所の頼れるおっさん」を目指して、「雑談から始まる“対話”と“つながり”の医療」を日常にしていきます。

みなさんも、薬膳茶を片手に対話を試してみませんか？



石丸勝之

○第3の家族

<「第3の家族」について>

家庭環境に悩む少年少女が自分の居場所を見つけられるように。

「第3の家族」とは、本人の家族（第1の家族）でも、学校・友達・地域の人（第2の家族）でもない、第3としての存在のこと。

社会資源に繋げるWebプラットフォームや、ハレの裏に居場所をつくる対面イベントを行っています。

<家庭環境データについて>

家庭環境問題を「視覚比喻」で表現し、当事者が、傷ついていることに気づく。社会が、立ち止まって考えてみる。

自分の家庭が居場所になっていない人は4人に1人。実は多いのですが、本人も社会も、まだそれに気付いていないのではないのでしょうか？

本調査では、全国15歳～25歳の400人を対象に調査を行いました。対象者の中の「家庭を自分の居場所だと思う群」、「家庭を自分の居場所だと思っていない群」で調査結果の比較を行います。

データの表現手法としては「視覚比喻」を用います。

例えば、「死にたくなる」という事象を「沸騰して溢れそうな鍋」で表現します。このように、「ちょっと考えさせられる表現」にすることで、当事者が傷ついていることに気付いたり、社会が立ち止まって考えたりするきっかけづくりを目指します。

NPO法人「第3の家族」理事長 奥村春香

第3の家族

Candle shop Akariya



Akariyaは、社会福祉法人みきの会ブレス中目黒が運営するキャンドルショップです。心の病を抱えた方々の就労支援や生活支援の訓練として、キャンドルの製造・販売を行っています。お客様の日々の生活と心をより楽しく豊かにしていく、小さなご提案ができれば…と願っています。

* 店舗営業時間 月～金 10:00-17:00 (不定期)

* 出張販売 (目黒区役所1階西口ロビー)
第2,第4,5火曜日 11:30～13:10

* 注文販売も承っておりますので、
お気軽にお問合せ下さい。

* ご注文・お問い合わせ先

ブレス中目黒

TEL 03-3716-1464



Akariya
あかり屋

